

証言。沖縄ひめゆり 学徒の生存者22人。未だ一切を語れぬ元学徒もいる。

忘
れ
た
い
こ
と
を
話
し
て
く
れ
て
あ
り
が
と
う

ドキュメンタリー映画「ひめゆり」松江上映会 & 監督ステージトーク

13年間にわたって撮り続けた、ひめゆり学徒の生存者22人の証言を記録したドキュメンタリー映画です。本当の「ひめゆり」の姿、そして生きる強さを感じられる作品です。

第2次世界大戦末期、沖縄では住民を巻き込んだ地上戦が展開されました。

15歳から19歳の女学生たちも戦場動員され、献身的な看護活動の末、多くがなくなりました。

「ひめゆり学徒隊」です。あまりにおごい体験をへて生きのびた生徒たちの多くは、戦後長く沈黙を保っていました。この映画は、彼女たちの体験にじっくりと耳を傾けたものです。 監督 柴田昌平

2022年

日時： 9月17日（土） ①10：00～12：10 / ②14：00～16：10

監督ステージトーク：①12：20～ / ②16：20～

会場：松江市市民活動センター（STIC） 交流ホール

料金：【全席自由】 前売り・予約券 1, 200円、当日券 1, 500円

大学生500円（当日券のみ） / 高校生以下・車椅子・介助者無料

※前売券販売所：プラバホール / 島根県民会館チケットコーナー

※予約券はメール、電話で受付できます。 E-mail: sengoshikaigi@gmail.com

予約・問合せ：090-3638-5438（森）、090-3638-3675（田中）

主催：戦後史会議・松江 / 人権パッチギの会 松江 特別協力：松江キネマ倶楽部

後援：島根県 松江市 山陰中央新報社



私の一生のお願いです。「ひめゆり」を観てください。出来れば世界中の人に観てほしいのです。次の世代に伝えてほしい、現実を感じてほしい。心がここに詰まっているからです。「ひめゆり」の中で話してくれた方々に心からお礼を言わせてください。「本当にありがとう」その想いを胸に僕も生きて行きます。感謝。 宮本 垂門（演出家）

「ひめゆり」は不思議な映画です。

誕生するまでに13年という長い年月がかかっていますがそれより長い期間、2007年から2022年まで毎年、6月の沖縄慰霊の日から終戦の8月まで全国のどこかで上映会が続いています。

決まった人間が主催するのではなく「ひめゆり」を見せたいと思った誰かが必ず現れ、上映会がバトンのように毎年引き継がれているんです。

ネット配信で誰でも好きな時に好きな映画が楽しめるこの時代で奇跡のような話です。

2007年の映画の大きな賞を給ナメにしたとか、DVD化されない作品であるとか、それだけが理由ではないと思います。悲劇を描くこの映画からは希望を感じます。元ひめゆり学徒隊のおばあ達は、人への恨み節を語らない。

厳しい現実を前に他者への慈しみや思いやりを語る姿に人間の尊厳を感じます。

彼女たちのたたずまいは作品全体に特別な品と透明感を与えました。

近頃、暴力で問題解決をしようとする風潮をととても強く感じます。

私たちが「ひめゆり」のバトンを受け取ってみなさんに見てもらいたいと思いました。

お約束しましょう。見終わったあなたはきっと戦争が嫌いになっています。そして、生きていって素晴らしいとわかるはず。 主催者一同